

大学図書館と国立情報学研究所との
連携・協力推進会議
平成 28 年 6 月 1 日承認

SCOAP³タスクフォースの設置について

1. 設置の主旨

2014 年に開始された SCOAP³ のフェーズ 1 は 2016 年に終了するが、既に SCOAP³ の Governing Council (GC) においては 2017-2019 年のフェーズ 2 に向けた具体的方針の検討が行われている。

フェーズ 2 に向けて、日本の大学図書館における具体的な対応を検討するために、フェーズ 1 と同様にアドホックなタスクフォースを設置することとしたい。

2. フェーズ 2 に向けた課題

SCOAP³ は、大学図書館等が対象雑誌の購読料として支払っていた金額を出版料 (APC) に振り替えることで OA を実現するものである。各国に期待される拠出額は、対象雑誌に掲載された高エネルギー物理学分野の論文数に基づき算定されている。フェーズ 1 において、世界の論文数の 7.1% のシェアを占める日本には、390,500 ユーロの拠出が求められていたが、実拠出額はそれを大幅に下回っている。

フェーズ 2 では、論文総数の増加に比例して、各国にフェーズ 1 の実拠出額の 2% 増の拠出が求められ、さらに、期待された全額を拠出できなかった国 (日本もこれに該当する) には、プラスアルファが求められる見込みである。

2016 年内にフェーズ 2 に係る MoU を締結することを想定し、大学図書館が拠出可能な額を明らかにするとともに、求められる拠出額との差分に日本としてどのように対応するかを早期に検討する必要がある。

3. ミッション

フェーズ 2 に対する参加機関と拠出可能額 (機関別および全体) の確認が喫緊の課題である。

フェーズ 1 の参加機関に対する拠出継続の依頼に加え、対象雑誌購読実績があるもののフェーズ 1 には不参加の機関に対する参加依頼を行い、各機関の参加可否の意向と拠出可能金額 (増額への対応の可否等) を確認する。その企画と実務を担当する。

4. 任期

平成 29 年 3 月 31 日 (金) までとする。

5. 開催回数等

回数：3 回 / 時間：各回 2 時間 (予定)

※上記の他、メーリングリストでの意見交換を行う。

6. メンバー

熊渕 智行 (東京大学附属図書館 情報管理課長) : 主査

若山 勇人 (東京大学附属図書館情報管理課資料契約係)

砂押 久雄 (東京工業大学研究推進部情報図書館課情報管理グループ長)

村野 亜子 (慶應義塾大学理工学メディアセンターテクニカルサービス担当)

吉田 幸苗 (国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課副課長) : 事務局